医療法人惇慧会
外旭川病院だより
第15号
2024年5月

理　念

人間を大切にする企業風土をつくり
人間を幸せにする企業を目指します

指　針

1．何事にも積極的に挑戦します
2．創造力を働かせ、新しい価値を創っていきます
3．地域と共に生き、地域に貢献できることを喜びとします

基本方針

1．医療人としての自覚を持ち患者さんの命と尊厳を守ります
2．患者さんの人権とプライバシーを最大限に尊重します
3．地域社会の一員として地域の医療・福祉の充実に努めます
4．思いやりのある医療と快適な療養環境を目指します
5．自己研鑽に努め質の高い医療を提供します

ホスピス開設後25年が経過して

外旭川病院名誉ホスピス長
嘉藤　茂

外旭川病院ホスピスは1998年12月に開設されました。ですから、昨年12月で開設後25年が経過しました。私は2000年4月に赴任しましたので、本年4月で24年間勤務させていただいたことになります。ここでは開設後5年くらいの時期と現在とを比較して、ホスピスに起こった変化について思いつくことをまとめてみます。

1. 病床数が増えました

開設時は1病棟で13床でしたが、現在は2病棟で合計34床に増加しました。これに伴い、1年間の入院患者数は、76名（2003年度）から307名（2023年度）へと激増しました。この増加に合わせて、担当医は1名から3名に増えました。入院患者数の増加と25年という時間の経過により、最近では、家族や親類などを当ホスピスで看取られた方(子世代など)が、ホスピスに入院されるケースもしばしばみられるようになりました。当ホスピスを選んでくださった感謝とともに、選ばれた責任を強く感じる時でもあります。

2. 患者層が変化しました

入院患者の平均年齢は　73.3歳（2003年度）から78.9歳（2023年度）に増加しました。最近では100歳越えの方をしばしば見かけるようにもなっています。開設時は、比較的若年層で癌の診断と治療がなされる中で、転移や再発に遭遇し、治療継続かホスピスケアかの選択に大きな葛藤を覚える患者さんが少なくなかったです。近年では90歳越えで癌と診断されてそのままホスピスケアに移行する場合が多くなりました。高齢者ケアは認知症ケアでもあり、以前に比較して病棟でのケアの内容が変化してきています。

3. ボランティア活動が充実しました

ホスピスボランティアの登録数は90名（2003年度）でしたが、コロナ前の2018年度には140名に達しました。コロナによって全面休止していた活動は、現在では一部再開に留まっていますが、今後はさらに門戸を広げたいと願っています。

25年間に以上のような変化がありました。しかし、今後も変わらないし、変わってはいけないことは、当ホスピスを頼りにしてくださる患者さんとご家族によりよいケアを提供し続けることです。
今後ともよろしくお願いいたします。

NEWS & TOPICS

第7回外旭川病院ホスピス緩和ケア市民公開講座を開催

5年ぶり

外旭川病院医療相談室 室長　吉村　周一郎

第7回ホスピス緩和ケア市民公開講座を、4月13日（土）にぎわい交流館ＡＵ多目的ホールにて、5年ぶりに開催しました。約100名の方にご参加いただき大盛況で幕を閉じました。

当院の名誉ホスピス長 嘉藤茂による開会のあいさつで始まり、前半のプログラムでは、寸劇を通して「ホスピスってどんなところ？」と題し、ホスピス外来、入院初日、痛みへの対応、スピリチュアルな対応、家族ケアと重要な5つの場面を、病棟スタッフ（医師、看護師、医療相談員、ボランティアコーディネーター）が役を演じ紹介させていただきました。後半のプログラムは「知っておきたいがんの症状と心のケア」と題し、ホスピス長である松尾直樹が、スライドを使いゆっくりとした口調でお話しいたしました。がん患者の「身体症状やその変化」「痛みの種類」「モルヒネに対する誤解・偏見」「点滴に対する考え」「せん妄等の精神症状」「鎮静の必要性」「スピリチュアルペインに対する対応」などの内容となっており、貴重な知識として得ていただいたのではないか思います。講演の最後で松尾の方からは「私たちは、最期まで患者さんを一人の人として接します。」と話された言葉が印象的でした。

参加された方からは、「とても分かりやすく、ホスピスについてよく理解できた」「ホスピスの悪いイメージを改めされられた」「モルヒネと点滴の誤解が解けた」「症状や概念だけではなく、患者を支えるために何が大切かを知った」との意見もあり、看護職の方からは「今日得たものを現場に還元していきたい」という言葉もいただきました。

この5年間、コロナ渦ということもあり開催を控えておりましたが、久しぶりの開催にも関わらず、たくさんのご参加とご意見・ご感想を寄せていただき心より感謝を申し上げます。

本講座は、来年度以降も継続していきたいと考えておりますので、引き続き多数の方にご参加いただき、少しでも理解を深めていただけたら幸いと存じます。今後ともよろしくお願いします。



ホスピスボランティアの役割と当院での現状

ホスピスボランティアコーディネーター　寺永 守男

「ホスピス緩和ケアは、…患者とその家族のQOL（生活の質）の改善を目的とし…提供するケアである。」（日本ホスピス緩和ケア協会の指針）。

ホスピス緩和ケアに願いを託し、入院してこられる患者さん。辛い心身の症状を何とかしてほしいと願う。それに応えようと懸命に取り組む医療スタッフの皆さん‥‥。痛みが取れた…、体が楽になった…等々本来の自分を取り戻される。すると、暇だ！何か楽しみたい！…と生活面に気持ちが移っていく。ここで登場するのがボランティアです。

当ホスピスでは、多くのボランティア（コロナ禍前で実働70名以上）が患者さんのQOLの改善を目指し活動しています。その内容は、家庭的環境作り（お花、飾り、各種カバー等）、直接サービス（お話し相手、喫茶サービス、趣味のお相手等）、各種行事の開催又は支援と多岐にわたり、患者さんが日常生活を少しでも取り戻す支えとなっています。

現在は、コロナ感染のために活動体制を縮小し、活動内容もかなり制限されている状況ですが、今年度は久しぶりにボランティアの募集が再開されました。ここで、しっかりと活動体制を立て直し、患者さんとその家族、そして病棟スタッフのご要望に応えられるよう努力したいと思いますので、皆さまの温かい支援を賜るようお願いいたします。

Our Team
部署の紹介

病院では患者さんのケアや施設の運営のため、多様な部署や組織が密接に連携しています。この連携が患者さんにとって最適な医療サービスを提供し、病院全体の効率性を高める重要な要素となっています。

美味しい食事をみんなで届けたい



栄養科 主任
佐藤 ルミ

病院での調理師の仕事は、飲食店などとは少し違い、管理栄養士が、患者さんの症状に合わせて献立を作成したものを調理しています。「朝」「昼」「夜」と３食の食事を提供し、体調の回復や治療をサポートしています。食べ終わったら、下膳、洗浄、調理場の掃除なども調理師が交替で行っています。患者さんの状態によって、「常食」、それよりも少し柔らかく消化の良い「軟食」、更に柔らかくトロミがある「やわらか食」や「ソフト食」、飲み込む事が難しい方には、お粥やおかずをペースト状に調理した「ペースト食」などがあります。

調理師は、ほとんど厨房で仕事をしていますので、直接患者さんとお話しする機会がありませんが、下膳の時には、「今日は完食してくれたね」とか「調子が悪くてご飯たべられなかったのかなあ」など、お膳を片付けながら患者さんの様子を考えたりしています。

お正月には「おせち料理」、４月には「お花見弁当」など、季節を感じてもらえるように、毎月行事食があります。管理栄養士が感想を聞いてくれたり、患者さんから「美味しかった」とお手紙をいただくことがあり、励みになります。

これからも患者さんに「給食が楽しみだ」と思ってもらえるように、美味しい食事をスタッフみんなで届けていきたいと思います。

安全で快適な環境作りやりがい感じて



施設管理課
榎　正

こんにちは、施設管理課の榎です。

ヨットで日本一周の夢をかなえるために機械メーカーの会社を退職し出航しましたが、コロナでどこの港にも拒否をされ戻り、縁があって外旭川病院に入職し、あっという間に４年目に入りました。

さて、施設管理とは一般的にビルマネジメントと言われており、建物の維持管理業務を指しております。

私はどちらかと言うと設備管理のビルメンテナンスに該当します。

と言うのも、電気工事士・冷凍機械責任者・危険物・ボイラー技士等のメンテナンス業務に適合する資格を持ち業務に当たっているからです。

また、エレベーターや空調機器に給排水設備など重要なインフラに対しても資格を生かし、病院全体が安全かつ快適に利用できるようにしていく仕事にやりがいを感じております。

今後も、36 年経過した病院をより良い状態を維持し、病院の本来の医療体制が円滑に運営されるように努めていきたいと思います。

新入職員あいさつ

看護師　杉原　敏之
（令和６年４月入職）

当院に入職する前は訪問看護師として働いていたため、病棟勤務に不安がありますが、スタッフの皆さんに助けてもらいながら、患者さんの事や仕事を覚えています。早く仕事を覚え、患者さんやご家族が安心できるような関わりや看護を提供できるように頑張っていきたいと思います。秋田県に引っ越してきてもう少しで２年になります。仕事だけでなく秋田での生活も充実させていきたいと思います。

看護師　宮原　理名
（令和６年４月入職／新卒）

現在は療養病棟にて先輩方の指導を受けながら、患者さんと関わらせていただいています。看護師としてはまだまだ未熟でわからないことだらけですが、先輩方の指導を受けながら日々過ごしています。看護学校で学んできたことや経験をこれから活かし、看護師として成長できるよう頑張りたいと思います。

薬剤師　佐藤　夏樹
（令和６年３月入職）

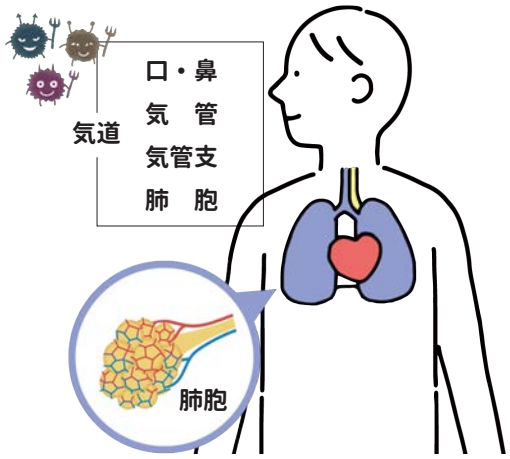
最初は慣れない環境で不安もありましたが、先輩方の丁寧なご指導や温かいお言葉に助けていただきながら、勉強の日々を過ごしています。まだまだ至らないところばかりですが、患者様に正しく安全な薬物治療を提供するために、薬剤師として成長できるよう努めていきたいと思っております。



肺の病気　COPD と新型コロナウイルス感染症

医師　須藤　和久

皆様は「肺の病気」というと何を思い浮かべるでしょうか。「肺の病気」と一言で言っても、気管支炎や肺炎、肺がん、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）などさまざまな病気があります。そして近年、特に話題に上った病気といえば新型コロナウイルス感染症（COVID-19）があります。今回、COPD と COVID-19 について取り上げます。



COPD とは、タバコの煙などの有害物質を長期に吸入暴露することによって生じる肺の病気のことです。有害物質を吸入することで、肺の奥までつながっている「気道」という空気の通り道や、吸った酸素と体内の二酸化炭素をガス交換する「肺胞」という肺の場所などに炎症が起きます。そのような状態が長期に続くと、気道が狭くなったり肺胞が壊れたりして、症状として息切れや咳、痰が出てきます。また、COPD は肺だけではなく全身に炎症が広がる病気です。COPD になると、心筋梗塞や骨粗しょう症、胃潰瘍、糖尿病などを発症するリスクも上がるのです。COPD を発症させないため、発症してもこれ以上進行させないためには、禁煙が第一です。禁煙が難しい方は、かかりつけ医などに相談してみてはいかがでしょうか。

次は COVID-19 についてです。昨年５月から５類感染症に移行し、今年４月からはワクチン接種と医療費について公費支援はなくなりました。ワクチン接種や変異株の影響により、以前よりも重症化するリスクは低下していますが、感染後の症状として疲労感や倦怠感、息切れ、動悸、記憶障害などさまざまな後遺症が残ってしまう場合があります。手洗い等の手指衛生や状況に応じたマスク着用など、個人での感染予防は引き続きおこなっていただければと思います。

これまで外旭川病院ホスピス実践公開講座で紹介した「緩和ケアの専門的知識」をYouTubeにて定期的に公開しています。医療機関、介護・福祉施設向けの公開研修プログラムとなっております。チャンネル登録してご視聴ください。

医療法人 惇慧会
外旭川病院
〒 010-0802 秋田市外旭川字三後田 142
TEL 018-868-5511　FAX 018-868-5577
https://jkk-sotohp.or.jp/sotohp/

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構
認定第 LL54 号

■ 病床数 241床（療養病棟 207床、緩和ケア病棟 34床）
■ 診療科目 /内科、皮膚科、リハビリテーション科

